

## 日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2024年3月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

<p>多系統萎縮症</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年にThe Movement Disorder Societyにより診断基準が提唱された（Wenning GK, et al. <i>Mov Disord.</i> 2022 Jun;37(6):1131-1148.）。</li> <li>▶ 確定例は剖検による確認を必要とし、中枢神経系に広範囲に<math>\alpha</math>シヌクレイン陽性のグリア細胞質内封入体を認め、線条体黒質系やオリブ橋小脳系の変性を認めることが必要である。</li> <li>▶ 臨床診断の場合、臨床的に確実なMSA（clinically established MSA）と臨床的にほぼ確実なMSA（clinically probable MSA）診断は、必須の特性（孤発性、進行性、成人[&gt;30歳]）、中心的な臨床特徴、支持的な臨床特徴（運動、非運動）、臨床的に確実なMSAのMRI指標、除外基準の組み合わせにより行われる。</li> <li>▶ また、将来的な病態抑止治療開発などを目的として、前駆期MSAの疑い（possible prodromal MSA）という新しいカテゴリーが追加された。前駆期MSAの疑いでは、今後開発される診断バイオマーカーが組み込まれる予定である。</li> </ul>
<p>偶発性低体温症</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・European Resuscitation Council（ERC）の蘇生ガイドライン（Lott C, et al. <i>Resuscitation.</i> 2021 Apr;161:152-219. Epub 2021 Mar 24. Erratum in: <i>Resuscitation.</i> 2021 Oct;167:91-92.）、偶発性低体温症のクリニカルレビュー（Paal P et al. <i>Int J Environ Res Public Health.</i> 2022 Jan 3;19(1):501.）が更新された。これらの情報更新を受けて、アルゴリズムをはじめ記載を大幅に見直した。</li> <li>・また、SSSの改訂版であるRSSSについて詳述した。</li> <li>▶ 深部体温測定が困難な院外でも低体温の重症度を評価する指標として、臨床症状に基づいて分類できるSSSが開発された。併存する他の指標との整合性にも配慮しつつ、分類の精度を改善させた指標がRSSSである。</li> <li>▶ 深部体温測定ができない場合、低体温症の重症度判定としてrevised swiss staging system（RSSS）を用いることが推奨されている（Musci ME et al. <i>Resuscitation.</i> 2021 May;162:182-187.）。</li> </ul>
<p>感冒 （急性上気道炎・ 鼻副鼻腔炎） （小児科）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報に基づき新たに書き起こした。</li> <li>・感冒と鑑別するべき感染症の流行状況を把握しておくことは、感冒を診断するうえでも役立つ。流行している疾患は、感冒にみえても鑑別疾患にあけて検討するべきである。/</li> <li>・RSウイルスが夏季に流行するなど、以前とは異なる流行周期に変化している。本稿では代表的な感染症の発生動向を記載した。</li> <li>・感冒とそれと類似した疾患について、症状の組み合わせと時系列に伴う変化を示した。</li> <li>・感冒に合併する細菌感染症で抗菌薬の適応があるものは、急性中耳炎、急性細菌性副鼻腔炎、急性肺炎などである。</li> <li>・鼻汁や咳嗽などの対症療法について最新のエビデンスに基づいて記載を更新した。</li> <li>▶ 鼻汁吸引については、医療機関での吸引に入院率の低下などのエビデンスはない（Schuh S et al. <i>JAMA Netw Open.</i> 2023 Oct 2;6(10):e2337810.）。</li> <li>・その他診断、治療、ホームケアの要点など詳細は臨床レビューを参照されたい。</li> </ul>

### 『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。約1,430の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。  
イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログイン  
なしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、  
③施設コードが必要です。管理者の方にご確認  
ください。

最新エビデンスをタイムリーに  
受け取れます。ご登録はこちらから。

